

# 2022年7月4日掲載 輸送新聞

経常利益はコロナ前超える

## 増収で大幅増益に

第一貨物

### 21年度業績

第一貨物（米田総一郎社長）を主要子会社とするディー・ディー・ホールディングス（武藤幸規社長）は6月29日、山形市の同本社で株主総会を開催し、第一貨物の業績を発表した。

第一貨物の2021

年度業績は、売上高727億3500万円の増、経常利益7億8100万円の617.2%増、当期純利益12億1千万円の1060.8%増となり、増収大幅増益の内容。売上高はコロナ禍前の19

年度（737億7300万円）に届かなかつたものの、経常利益は19年度（6億700万円）を上回っている。

主力の特積み事業は、輸送量が低迷する中で積極的に新規顧客の獲得や既存顧客の拡販に取り組んだ結果大きな増収となり、利益面では自社化の進展などコスト構造変革の効果が着実に表れた反面、軽油価格の高騰が予想をはるかに超え、

収支を圧迫した。ロジスティクス事業は巣ごもり需要が大顧客の業績に好影響をもたらし、増収を確保した。

役員については鍋谷雅彦名古屋支社長・松田俊広業務第一部長・泉川栄光営業第一部長・高宮睦哉業務第二部長の4人を取締役に新任したほか、中田信哉非常勤監査役を新任。岸仁・吉田郁雄・工藤隆雄の3取締役と中桐俊監査役が退任した。